



み や ぎ

— 66号 —

発行元 独立行政法人国立病院機構 宮城病院
発行責任者 広報委員長 安藤 肇史
〒989-2202

宮城県亘理郡山元町高瀬字合戦原100番地
TEL 0223-37-1131 FAX 0223-37-3316
ホームページ <http://www.mnh.go.jp/>

新年を迎えて

院長 永野 功

新年明けましておめでとうございます。令和に変わって初めての新年を迎えました。

昨年2019年は宮城病院創立80周年の節目の年でありました。80周年記念行事として、記念誌発刊や記念植樹、外来診療棟のお色直しや駐車場の整備、マスコットキャラクターの作成などさまざまな活動を行いました。10月19日に予定していた記念祝賀会こそ台風19号の水害を鑑みて中止しましたが、代わりに丸森・角田へ医療班を連日派遣して当院を育ててくれた地域へさやかな貢献ができたことは、創立80周年の年にふさわしいものだったと思います。ご協力いただいた職員の方々へ感謝申し上げます。

さて、今年2020年の宮城病院には3つの大きなプロジェクトが予定されています。第一に、2019年12月に訪問看護ステーション「かけはし」が正式に発足しましたが、4月からは理学・作業療法士を増員して訪問リハビリテーションを始めます。第二に、山元町から地域包括支援センターを受託することが決まり、4月から業務を開始することになりました。機構病院としては、今まで経験したことのない福祉・介護の分野へ宮城病院が先陣を切って船出します。この業務を通して、医療面のみならず福祉面においても地域への貢献をいっそう深め、当院が地域包括ケアシステム構築の推進力となることを目指します。第三として、国立病院機構で初となるMRガイド下集束超音波治療装置の導入が決定しました。準備委員会を立ち上げて周到な準備を行い、早ければ7月には運用を開始する予定です。当院脳外科は機能脳外科のセンターとして、県内外から患者を集めてDBSやSCSによる神経疾患の治療を進めてきました。これからは、MRガイド下集束超音波治療装置という先進的な医療装置を用いて手術なしに不随意運動やパーキンソン病の治療を行えるようになります。これらの疾患に悩む患者さんにとっては大きな福音になるでしょう。地域に根差した医療を地道に行いながらも、全国レベルの先進的診療も推進している当院の存在意義をさらに高めることも期待されます。

今年、創立100周年を目指して歩む1年目です。100周年の宮城病院は今とは大きく変わっていることでしょう。周囲では少子高齢化がさらに進行、少産多死社会の中で高齢者数の減少が始まり、当地域ばかりか県内人口も相当減少することが予想されます。わが宮城病院が100周年の時点でも存在意義を保ち、地域で医療活動を継続するには、社会構造の変化に応じた大きな改革が必要になります。今後、病床機能の転換や病床数の見直しなど大きな変革も避けられないでしょうが、時代の荒波の中にあっても患者一人一人を大切に、心をこめて対応する宮城病院の心は決して忘れてはならないと思います。職員の皆さん、変化を恐れず切磋琢磨しながら次の時代へ一歩一歩進んで行こうではありませんか！

基本理念

『良い医療を安全に、心を込めて』

行動理念

1. 私たちは生命と人権を尊重し、患者さんを中心とした質の高いチーム医療を推進します。
2. 私たちは難病、重症心身障害など国が担うべき医療と臨床研究を推進します。
3. 私たちは地域の医療・行政機関と連携し、地域の方々の疾病予防や健康の向上に貢献します。
4. 私たちは病院の機能を十分発揮できるよう、健全な経営と経営基盤の強化に努めます。
5. 私たちは常に患者さん方から学び、向上する組織体を目指します。
6. 私たちは常に明るく働きがいのある職場づくりに努めます。



宮城病院公式マスコットキャラクター
「みやべりー」

宮城病院に新たな治療機器—MRガイド下集束超音波治療器—が導入されることになりました。今夏より稼働開始予定です。



MRガイド下集束超音波治療と言っても医療関係者でさえあまり馴染みのない言葉だと思いますが、簡単に言うと本態性振戦（手足が震える病気）に対する超音波を利用した新たな治療方法であり、更に近々パーキンソン病にも治療適応が拡大される見込みです。

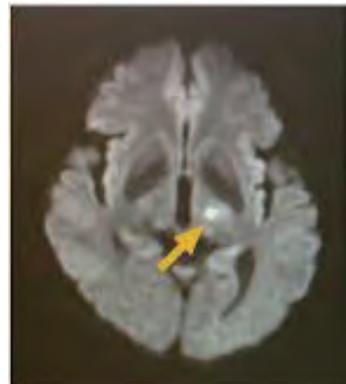
もともと本態性振戦は薬物治療が一般的ですが、重症になると食事の際に箸の使用も困難となり日常生活動作がかなり制限を受けます。そのような患者さんに対し脳深部刺激術という外科治療が有効ですが、実際に手術を受ける方は多くはいません。脳の中に電極を埋め込むという方法ですので、不安感や恐怖感から手術を受けることを躊躇して「ふるえ」を我慢してしまうことが多いのは当然だと思います。一方、今回導入するMRガイド下集束超音波治療の最大の特色は「切らない手術」であるという点になります。脳の深部に操作を加えるということでは脳深部刺激術と同じ原理なのですが、イメージとしては図1のように超音波を頭蓋骨の外から当てて「ふるえ」の原因となっている部位の働きを抑えることになります。図2は治療後のMRIで超音波が集まった部位が白く変化しています。

当院はパーキンソン病の外科治療として脳深部刺激術を積極的に行っていますが、本態性振戦に対しても同様な手術経験を有しています。今後行うMRガイド下集束超音波治療にもこれまでの経験が役立つと思われます。日本全国でも十数台、東北地方では初の導入となりますので、治療自体は余り知られていません。もし「ふるえ」の症状に困っている方が周りにいた場合、こういう治療があるんだよと伝えていただければ幸いです。また、実際に治療適応となるかは外来での診察が必要となりますので、その際は地域医療連携室にご連絡ください。

（特命副院長・地域医療連携室長 安藤 肇史）



（図1）



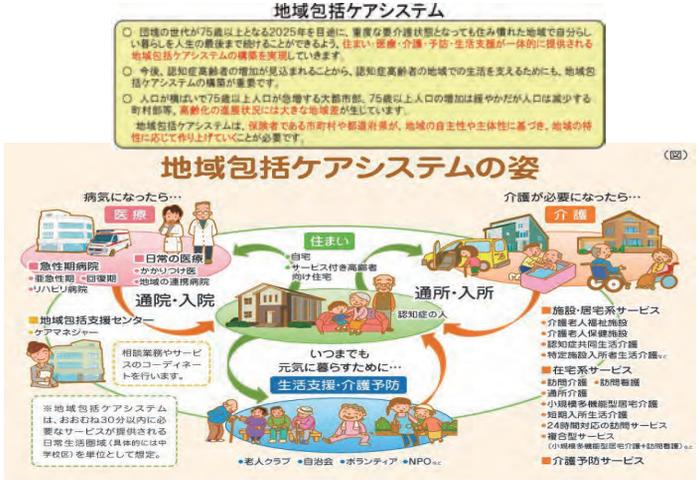
（図2）

「山元町地域包括支援センター業務委託」を受託

昨年12月18日に、山元町が「山元町地域包括支援センター業務委託」の受託者選定手続き開始公告を行いました。地域包括支援センターは、地域における高齢者の総合相談と包括的支援体制を確立し、高齢者が要介護状態になることの予防を推進するとともに、地域住民の心身の健康の保持増進及び生活の安定のため、包括的支援事業等を行うものであり、厚生労働省が進める「地域包括ケアシステム」の要となるものです。当院は、更なる医療と介護の連携、そして行政との連携がさらに強固となり、山元町の住民の健康と福祉の増進に寄与する観点から業務委託先として応募し、1月10日に山元町から委託先として選定されました。国立病院機構の病院では初めてとなります。

今後、1月下旬に契約が締結され、4月1日から4年間の予定で業務が開始されます。最初の1年間は、山元町役場内で引継と研修を受けながら業務を行い、2年目からは宮城病院内で行う予定です。センターに配置する職員としては、保健師1名、社会福祉士1名、主任介護支援専門員1名、ケアマネージャー1名、生活支援コーディネーター2名、認知症地域支援推進員1名を配置し業務に当たります。

(事務部長 宗像 広)



訪問看護ステーション開設

令和元年12月より「宮城病院訪問看護ステーションかけはし」が開設いたしました。管理者1名、看護師4名の計5名のメンバーです。365日、24時間対応を行います。「高齢者や療養者が病気や障害があっても住み慣れた地域や自宅で安心して療養生活ができるよう支援します。」を目標に頑張りたいと思います。宮城病院の訪問看護ステーションとして、医師、看護師、多職種と連携を図り利用者さん、ご家族の方々が安心して在宅生活を送れるよう支援を行いたいと思います。病院内を紺色のジャージ、ピンクのポロシャツを着て歩いています。お気軽にお声がけください。よろしく願いいたします。

(訪問看護管理者 星 康子)

患者様・家族が退院後どのように生活を送りたいか希望を念頭におき、退院支援調整を図ってきました。訪問看護では、今まで培った経験を活かし、在宅で療養される利用者の方に対し看護の提供だけでなく、ご家族の方に対しても精神的サポートを行い、安心・安全・安楽に生活が送られるようサービスを提供していきたいです。

梶谷 亮

在宅ケアニーズの高まりで訪問看護へのニーズも高まる中、今までと異なる環境と頼りになるスタッフに囲まれ、新しく学ぶことの多い毎日です今は初心に戻り、求められている看護とは何かを考えながら奮闘中です。これまで培った経験を活かし、医療と在宅の「かけはし」となれるように頑張ります。

秋山 一恵

訪問看護は病院とは異なり、生活の中に密接に関わることとなります。看護の視点で生活を支えていくためにもより多くの知識を得ること、利用者さまに関わる様々な職種との連携が大切になってくると思います。利用者さまやその家族の思いに寄り添いながら、安心して生活できるよう支援していきたいです。

渋谷 香織

生活の場でどのような看護が求められているのかを実際に在宅で生活している方々に日々勉強させていただいています。利用者様、ご家族様からの笑顔やありがとうの言葉に支えられ楽しく看護を提供させていただいています。目標は利用者様、ご家族様が笑顔で在宅生活が継続できるように安心して相談できる看護師になる事です。

西 夏美

メンバー一同頑張ります



医療支援活動



宮城病院医療班出動！！

宮城病院の災害医療班が、令和元年10月12日（土）日本に上陸した台風19号により被災した丸森・角田地域への医療救護活動を10月17日（木）から23日（水）まで行ってきました。

活動の内容は、仙南保健福祉事務所にて全体ミーティングを行った後、エリアリーダーの指示のもと、避難所で生活している方の診察や衛生環境などのチェックをしてきました。

特に丸森地域は被害が大きく、避難所にはたくさんの人が生活しており、また、耕野地区、羽出庭地区の避難所に行く際は、土砂崩れや道の破損などがあり、大変危険な道路状態でした。7日間という期間ではありましたが、活動していただいた先生及び看護師さん大変お疲れ様でした。

また、このたびの台風19号で被災された皆様、ならびにご家族、ご関係者の皆様には謹んでお見舞いを申し上げます。被災地におかれましては、一日も早い復旧・復興を心よりお祈り申し上げます。

（庶務班長 舞原 範夫）

総合診療外科部長着任のごあいさつ

令和2年1月1日付けで宮城病院に着任しました、八巻孝之（やまきたかゆき）と申します。

私は、丸森生まれの角田育ちです。東北大学旧第一外科（現総合外科）出身で、肝臓疾患研究班に所属、文部教官助手を経て、2000年医学博士を取得しました。医局から出向した10年間は、国立仙台病院（途中で現仙台医療センターに改称）で肝胆膵領域の外科診療に従事しておりました。

その後、仙台医療圏の科長・部長職を歴任し、2016年3月から生まれ故郷の国保丸森病院副院長に就任、外科系の総合診療のみならず、医療安全や感染制御、公的病院の経営理論、医療・介護・福祉・保健事業の連携についても研鑽を重ねておりました。令和元年秋の台風豪雨災害は生涯忘れられない出来事

でしたが、宮城病院さんには入院患者さんの受け入れや丸森・角田地区への医療救護支援などにご尽力を賜り、この場をお借りして深く感謝申し上げます。

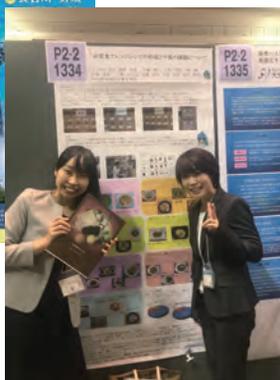
この度、故郷の隣町、山元町で勤務することになり、深いご縁を感じております。こちらの総合診療外科が決して「よろず外科」とならぬよう、ただ今熟考中です。職員一同心を一つにして、楽しく働いていきたいと思っております。どうぞ宜しくお願い致します。

（総合診療外科部長 八巻 孝之）



総合診療外科部長
八巻 孝之

第73回総合医学会



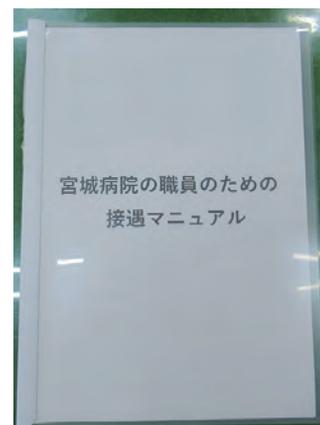
昨年11月8日（金）から9日（土）にかけて「第73回国立病院総合医学会」が名古屋市で開催されました。例年この時期に開催され、全国の国立病院機構の病院関係者が集まり、2日間に渡って盛大に行われます。今回も約6千人近くの関係者が集まり、当院からも、医師や看護師、医療職種を中心にポスター発表など日頃の研究や症例発表など10題の演題登録を行いました。来年度の開催地は新潟市、2年後には仙台市での開催が決定しており、今後も積極的に当院より多くの演題発表を行っていきたいと考えております。

（管理課長 大坂 雄二）

宮城病院職員のための接遇マニュアル完成

今年度の副看護師長接遇プロジェクトで「宮城病院の職員のための接遇マニュアル」の作成に取り組みました。平成29年度に接遇自己チェックを全職員対象に実施し、「患者対応」「態度」「挨拶」が宮城病院の課題であることが明らかになりました。接遇は病院を印象付けるものであるため、職員全員が意識して取り組んでいくことが必要と考え、作成に至りました。完成した接遇マニュアルをもとに伝達研修を行い、宮城病院職員の接遇に対する意識付けの一助になったかと思えます。

しかし、接遇マニュアルは置いてあるだけでは接遇の向上にはつながりません。マニュアルをもとに接遇を意識し、日々の自分の行動を振り返り、職員全員で宮城病院の「接遇力向上」を目指しましょう。



（中央4階副看護師長 岩井 勇介）

虐待防止研修会



虐待防止研修会の様子

12月13日（金）、外部講師に宮城県社会福祉協議会の小野浩子様をお招きし、今年度3回目の虐待防止研修を開催しました。

虐待とひと言で言っても、身体的虐待、性的虐待、心理的虐待、経済的虐待等があります。研修では、実際にあった虐待行為の具体的な事例をあげ、それが何の虐待に該当するのか問答式で検証しました。今回の研修を受講し、普段の何気ない言動が虐待につながる可能性があるかと改めて認識しました。

（専門職 遊佐 博子）

非常食レシピ

今回、当院に災害時を想定して購入した賞味期限間近の非常食（調理不要食）をいかに美味しく無駄にすることなく、患者さんへ提供できるか検討を行い、非常食アレンジレシピ集の作成に至りました。

非常食に少し手を加えることで非常食とは思えない美味しい料理ができ、実際患者さんに提供したところ大好評でした。今後も患者さんに喜ばれる安心・安全で美味しい食事を提供していきたいです。

(栄養士 小山内 弥生)



『よい医療を安全に、心を込めて』

宮城病院栄養管理室

Special Thanks



栄養管理室職員の方々



↓非常食レシピ集はこちらから



URL: <https://miyagi.hosp.go.jp/files/000120124.pdf>

綱引き大会



令和元年11月23日（土）、「第2回町長杯争奪キラリ☆やまもと綱引き大会」に参加してきました。山元町役場の皆さんに参加のお誘いをいただき、町民の方々と交流できる良い機会と思い、参加の申し込みを行いました。綱引き大会のチーム構成は、8名1組のうち女性が必ず2名必要です。男性は若手を中心に声掛けを行い確保できたものの、女性メンバーがなかなか集まらずメンバー最終登録日ぎりぎりまで1名しか決まっていなかったのですが、看護師さん2名が新たに加わり総勢15名でチーム登録を行い、今回チーム名を新たな病院マスコットキャラクターである

「宮城病院みやべりー48」として初参加いたしました。

当日は小学生から町内会、企業チームがたくさん参加されていて、開会式から選手たちの緊張感が徐々に高まる中、試合開始となりました。選手たちの勤務が夜勤など不規則なことで、事前練習がほとんど出来ずとても不安のなか、予選ラウンドでは4チーム総当たり戦で上位2チームが決勝進出となります。結果は残念ながら1勝2敗で予選敗退となりました。1本の綱を全力で力を合わせて引く難しさを痛感しました。今回、決勝トーナメントには行けませんが、当日は皆全力でチーム一丸となり、記念すべき初勝利や他の試合でも惜しい試合があり、選手達が非常に悔しがっていた姿が印象的でした。大会会場内も、各チームに力のこもった大きな声援で盛り上がり、病院からも永野院長はじめ病院幹部の声援もあり、来年も開催の機会があれば、決勝トーナメント進出に向けて、また頑張りたいと思います。



今回は、チームでお揃いのせんこくんTシャツを作成し、町の方々と楽しく、職員も一体感がより強くなりました。今回参加いただいた職員及び大会へのお誘いをいただいた山元町の方々に深く感謝いたします。

(管理課長 大坂 雄二)

クリスマスイルミネーション☆



電飾で彩られた宮城病院

当院恒例のクリスマスイルミネーション！！

今年も12月5日～12月27日の日程で開催されました。職員がすべてデザイン・飾り付けを行っていて、まさしく「手作り」のイルミネーションです。

点灯式当日は寒い中、点灯式に集まった職員が「10・9・8・・・1」とカウントダウン、院長先生がスイッチオン！「わあ〜♪」の歓声とともにきらびやかに、イルミネーションが浮かび上がりました。病院の正面玄関前の前庭が一気に華やかになり、地域の風物詩ともなっています。来年も更なるバージョンアップに向け頑張りたいと思います。

(庶務係長 小原 有里)

日本フィルハーモニーコンサート



令和元年11月26日(火)に、日本フィルハーモニー交響楽団の訪問コンサートが南ab病棟ホールにて開催されました。

前回は当院に5名の方々に訪問いただき大変好評でしたが、今回は地元山元町出身ソプラノ歌手の千石史子さんをはじめ、バイオリン奏者の松本さん、チェンバロ奏者の永野さん3名による演奏活動を行っていただきました。

当日は外来患者様、入院患者様、職員や保育園児など会場には大勢の方々が、その素晴らしい歌声や本物の演奏に魅了されておりました。会場に訪れていた外来患者さまからも「この日本を代表する楽団の方々の演奏をまさか病院で聴けるとは思わなかった。本物の音色は最高です。」と大変感動されておりました。また来年もぜひお越しい

ただきたいと思います。(管理課長 大坂 雄二)

連携室のコーナー

あけましておめでとうございます。相談員(ソーシャルワーカー)の森真紀亜です。

今回は、皆さんもよくご存知のケアマネジャー(介護支援専門員)さんと私たちソーシャルワーカーの役割についてお話しします。

皆さんは、ケアマネジャーとソーシャルワーカーの違いって何だろう?と思ったことはありませんか?簡単に言うと、ソーシャルワーカーが介護保険制度を含む福祉制度全般を守備範囲としているのに対し、ケアマネジャーは介護保険制度のスペシャリストです。持っている資格も異なります。ケアマネジャーは、介護保険で運営される居宅介護支援事業所や施設等に所属しています。ソーシャルワーカーは医療機関や地域包括支援センター、各種福祉施設、学校、そして介護保険施設など、あらゆる「相談支援」機関にあります。

しかし、共通点も多々あります。ケアマネジャーもソーシャルワーカーも依頼を受ける上で最も大切にしているのは、依頼者本人の意思を尊重することです。時には制度上の制約やサービス提供者の事情のため、希望を100%実現することが難しいこともありますが、その中でも最大限希望に沿えるよう努めております。

また、日ごろから様々な相談機関と連携しておりますので、ご相談内容に合う担当機関を紹介することができます。例えばケアマネジャーに医療のことで相談された場合も、医療機関の医師やソーシャルワーカーに繋いで皆さんをお手助けすることができます。

もし、いま困っていることがあって、誰に相談したら良いかわからない。そんなときはケアマネジャーでもソーシャルワーカーでも自治体窓口でも、お近くの相談支援者に是非ご相談ください。きっとお役に立てると思います!



(相談員 森 真紀亜)

診療科		曜日	月	火	水	木	金
脳神経内科 (新患は予約制)	新患		久永 欣哉	中屋 亮彦	宮澤 康一	松本 有史/金子 仁彦	中屋 亮彦
	再来		永野 功	久永 欣哉	金子 仁彦	久永 欣哉	久永 欣哉
			中屋 亮彦	伊藤 博明	松本 有史	伊藤 博明	
内科			清野 仁	清野 仁	伊藤 博明	清野 仁	清野 仁
			志澤 聡一郎	志澤 聡一郎	志澤 聡一郎	志澤 聡一郎	志澤 聡一郎
				齊藤 秀行	齊藤 秀行		東北大学病院から
循環器内科	午前		東北大学病院から				
	午後		東北大学病院から (検査日)				
呼吸器内科					蒲生 俊一		
消化器内科	午後			県立がんセンターから (13:30~15:30) 第2・4週(木を基準)	県立がんセンターから (13:30~15:30) 第2・4週(木を基準)		
外科 (総合診療外科)	午前		八巻 孝之			八巻 孝之	八巻 孝之
	午後			(手術日)		(手術日)	
アレルギー科	午前		堀川 雅浩		堀川 雅浩		堀川 雅浩
小児科	午前		堀川 雅浩 東北大学病院から		堀川 雅浩 東北大学病院から		堀川 雅浩 東北大学病院から
整形外科	午後						県立がんセンターから (13:30~15:30)
形成外科	午後				舘 一史		澤村 武 (隔週 13:30~15:30)
皮膚科						東北大学病院から	
脳神経外科			永松 謙一 (仁村 太郎)	安藤 肇史	仁村 太郎	(手術日)	安藤 肇史 永松 謙一
歯科			中原 寛子	中原 寛子	中原 寛子	中原 寛子	中原 寛子
専門外来	パーキンソン病外来		脳神経内科外来にて随時受け付け				
	頭痛外来		脳神経内科外来にて随時受け付け				
	もの忘れ外来		脳神経内科外来にて随時受け付け				
	ALS外来		脳神経内科外来にて随時受け付け				
	糖尿病外来					東北大学病院から	
	禁煙外来	午後					山本 蒔子 (第2・4週)
	女性外来	午後					山本 蒔子 (第2・4週)
	漢方外来		志澤 聡一郎			志澤 聡一郎	
	入れ歯外来					伊藤 秀美	伊藤 秀美

受診される方へ

- ①受付時間は8:30~11:00です。
- ②土曜日・日曜日・祝日・休日及び年末年始(12月29日~1月3日)は休診です。
ただし、急患の方は随時受付いたします。
お問い合わせ先 0223-37-1131
- ③初めて当院を受診される方は、他の医療機関からの紹介状をお持ちください。紹介状がなくとも受診はできますが、その場合初診時に2,750円を負担していただくことになりますので予めご了承ください。

交通のご案内

●自動車でおいでの方●

■仙台方面から■

仙台市中心部から南へ約40km、国道4号線と6号線の分岐点から南へ約20km、国道6号線314.5kmポイント(標識)が目印です。
高速道路ご利用の場合、常磐自動車道山元ICで降り、国道6号線を相馬方面へ南下。山元ICから約5km。

■相馬方面から■

国道6号線を仙台方面に向かい、宮城・福島県境から約10分です。

●交通機関をご利用の方●

■仙台方面から

JR常磐線互理駅下車、タクシーまたはJR代行バス(詳しくはお問い合わせください。)

